

### 第三回 日本華人教授会公開講座 終了のご報告

日本華人教授会公開講座委員会

2019年7月20日

日本華人教授会では、会員同士の知的交流、日本人の皆さま、日本に在住しているその他の方々との交流を通じて、相互理解、知的形成を促進するため、社会貢献活動として公開講座を企画して実施する運びになりました。

第三回目は、旬の話題で世の中から大きな関心を寄せている米中貿易紛争の表象と原因そしてその行方について日本華人教授会から二人の講師をお招きして、米中貿易関係の過去、現在、将来について体系的に整理してその背景を分析し、貿易紛争の行方を展望してもらった。関心の高いテーマなので、60名以上の申し込み者がおり、当日は、政府通商政策担当者や学者、企業マネジャー、社会人など40数名が参加され、活発な質疑応答が行われ、成功裏に終わりました。

講座は、まず苑志佳先生（立教大学教授）により、米中政治経済・通商関係の歴史展開をレビューし、貿易関係とグローバル化との関係、米中貿易摩擦の構造的問題と国内政治との関係などを解説していただき、米中紛争の複雑さと奥深さを語っていただきました。続いて、金堅敏先生（富士通総研経済研究所主席研究員）は、米中貿易紛争から次世代デジタル技術とナショナルセキュリティとの関連性、そしてハイテク産業における米中の主導権争いに至って、米中紛争の争点変化と米中貿易紛争合意の可能性と技術紛争の長期化を分析し、その展望を語っていただきました。

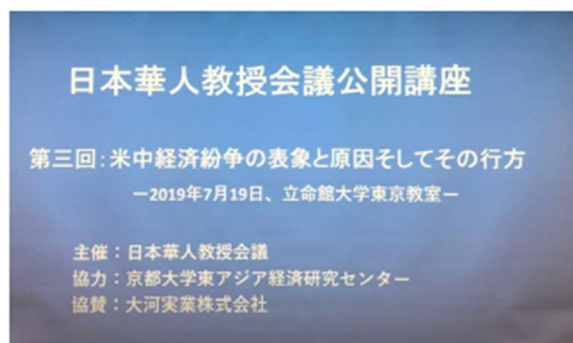


苑志佳先生（立教大学教授）



金堅敏先生（富士通総研主席研究員）

二人の講師のご報告を踏まえて、会場から活発なコメントや質問が出されました。米中貿易紛争の世界経済やグローバルサプライチェーンへの影響、米中貿易交渉による妥協或いは決裂の見込み、米中通商摩擦に直面する企業の対応、米中紛争の影響を受け中国のイノベーションや企業活動への影響などについて、講師と来場者との双方向の交流が活発に行われました。このような双方向対話型の講座方式は、本企画の本意であり、狙うとおりに実現されたと評価されよう。



当会は、これまでの経験を踏まえてより魅力のある公開講座を社会に提供し、活発な知的貢献を続けていく所存であります。